

アルバータ大学に留学して

University of Alberta

高橋 恵生

(東京大学)

2021年の春よりカナダのアルバータ大学に留学し、理学部化学科の Dr. Campbell 研にて新規バイオセンサーの開発と応用をテーマに研究を進めています。大学のあるエドモントンはアルバータ州の州都で、冬季オリンピックが開催されたカルガリーから約 300 キロ北に位置します。冬はなんと -30°C にもなる極寒の地で、外を歩いているとまつ毛が凍るのがわかります。一方で、夏は湿気が少なく、また日が長いので大変過ごしやすいです。緯度が高いことから、市内でオーロラを見られる日もあります。また、エドモントンは市内にスキー場が点在し、週末や仕事帰りに手軽にウィンタースポーツを楽しむことができます。アルバータ州にはジャスパーやバンフといった国立公園があり、休暇は家族と友人とこれらの国立公園で過ごすのが定番のようです。私もこの一年でこれらの国立公園に何度か足を運ぶ機会がありました。行くたびに異なる姿を見せてくれるカナダの大自然にいつも心奪われます。バンクーバーやトロントといった大都市ではありませんが、エドモントンは大変生活しやすく、日々穏やかに研究しています。

Dr. Campbell 研ではタンパク質工学を使用して、カルシウムインジケータをはじめとしたさまざまなバイオセンサーの開発を行っています。私は留学前まで、さまざまイメージング技術を“応用”しながら、がん研究に取り組んできました。今回の留学では、イメージングツールを“開発”する側の研究室に受け入れてもらったことで、新たな実験手法のみならず、これまでとは異なる角度からの課題へのアプローチを学ぶことも多いです。一方で、細胞やマウスにてイメージングツールをこれまで応用してきた立場から、どうすれば開発されたツールがより有用に活用されるのかを日々考えながら研究しています。新型コロナウイルスの影響で、渡航が大幅に遅れるなどと影響はありましたが、留学してからはロックダウンされることもなく概ね通常通りにラボで研究できているのは幸運だったと感謝しています。

カナダの方は親切な人が多く、また移民や留学生に慣れているからか、私の英語が聞き取りにくくても何度も聞いてくれますし、こちらが聞き返しても嫌な顔をせずに応えてくれます。これらは生活していく上で大変ありがたいです。また、新型コロナウイルスに対する国や州の対応についてのニュースやワクチン等の手続き、ラボメンバーとの普段の何気ない会話を通して、日本とカナダの共通点や違いを身をもって感じた1年でした。このような貴重な経験ができてるのは、日本とカナダの多くの先生方やラボメンバー、そして家族のおかげです。今後も多くのことを吸収できるようアルバータ大学での研究生活に邁進していき

と思います。

最後になりますが、本留学に際しまして多大なご支援をいただきました上原記念生命科学財団に改めて心から感謝申し上げます。



バンフ国立公園のモレーン湖